

こんにちは!

村立東海病院



子どもの発熱・ひきつけ・夏にはやる病気

子どもはよく風邪をひき、しばしば高い熱を出します。家族はとても心配になり、受診のきっかけとなります。もちろん、子どもが高い熱を出しているのに心配しないというのは論外ですが、一方で発熱にとらわれ過ぎて熱の高さに一喜一憂するのも、「木を見て森を見ず」ということなのではないかと思います。

●急な子どもの発熱…どうしたらいいの？

発熱は体に備わった病原体に対する防御反応の一つなので無理に抑える必要はありませんが、本人にとってはつらく感じる症状ですので、つらさに応じて解熱剤を使うなどの対応をしましょう。風邪が治って症状が治まるまで、できる限り快適に過ごせるようにしてあげましょう。

また、発熱には悪い側面もあり、体温を上げるにしても下げるにしても、エネルギーを使います。体温が高くなると自分で感じることなく気道や皮膚から蒸散する水分が増え、水分を失いやすくなります。また下熱するときには、汗をかくことで水分を失いますので、消化が良く、すぐにエネルギーに変わる炭水化物を中心に食べたり、水分を小まめに取ったりするようにしましょう。

●ひきつけはどんなときに起こるの？ その対処法は？

体温が急に変動するとき、ひきつけを起こすことがあります。小学校入学前くらいまでの子が起こしやすく、体温の動き方が急であればあるほど、大きければ大きいほど起こしやすくなるといわれています。また、発熱し始めたころの方が起こしやすく、熱の出る初めの2日以内が最も起きやすいタイミングです。

ひきつけを起こしてしまったときの対処法ですが、まずは慌てないこと。それから、他の人にも来てもらって子どもの様子を見る人、受診の準備をする人など、役割分担を決めましょう。子どもの様子を見る人は、まずは吐かないかを注意して見てください。吐物を誤嚥すると誤嚥性肺炎という重い肺炎を起こしてしまう場合があります。吐いたときは、顔を横に向け、誤嚥しないようにしてください。割り箸やタオルを口にかませるのは良くありません。そして余裕があったら、けいれんの様子や、治まるまでの時間を見てください。車を運転して医療機関に連れて行く場合は、交通事故を起こさないように十分注意しましょう。

●夏にはやる風邪にご注意を…

プールに入る機会が増えるこれからの季節は、プールの水を介した感染が増え、エンテロウイルス(主に手足口病・ヘルパンギーナなどを引き起こす)やアデノウイルス(主にプール熱・はやり目などを引き起こす)による、いわゆる夏風邪が増えてきます。人によっては高熱を出したり、喉の痛みが強くて食事できなくなったり、胃腸症状が出たりしますので、症状に応じて対処してください。特別に効く薬はありません。自力で治るまでよく看病してあげてください。

村立東海病院 小児科科長 川井伸

総合受付からのお願いです！

- 保険証は月に一度、必ず提示してください。
- 氏名や住所、職場などに変更があったら、総合受付までお知らせください。
- 保険証の提示がない方は、自由診療扱いになる場合がありますので、ご注意ください。
- 当院の診察券は必ずお持ちください。紛失または忘れた場合、手続きに時間がかかり、診療が遅れる可能性があります。

元気に夏を
乗り切ろう!



【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)